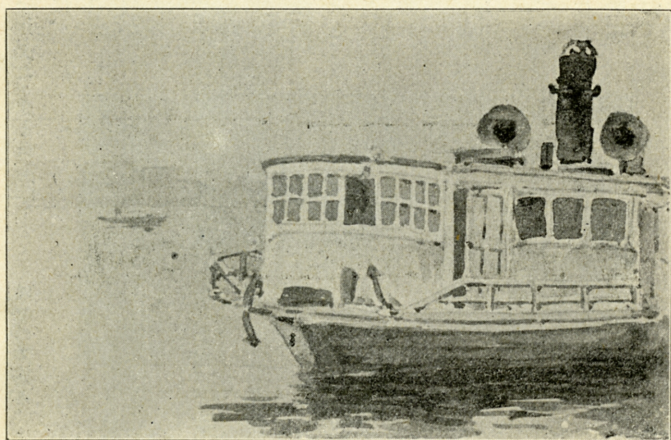


云ふ順序に修得して行つたものであるが、黒田教授等が其變則

乃至畫家の優劣は、斯くの如き標準を以て一概に判じ去る可き

であり又弊害あるを稱へられて以來、美術學校あたりの學生には、水彩畫をやるものは少くなつた。多いのは素人の水繪を畫く人である。油畫より道具が輕便であると云ふとも之れに與つて力があるであらふ。兎に角素人の畫をいぢる人が増えたのは即ち洋畫趣味の普及で、悦ぶ可き現象である。そして此方面に於ける三宅大下等諸君の功勞は大なるものである。



雨 國 ス ケ ツ チ

ものではあるまい、水繪に一種の特色ある以上は、私は其仕事の小さいからと云つて、此畫料を固守する人々を輕視したくないのである。(完)

△ △ △

ある朝、護國寺の境内で寫生をしてゐたら、そこへ陸軍墓地の歸途らしい一小隊ばかりの兵が來た。皆々背後に立つて見てゐたが、あとから來た兵卒連は何も知らず前へ立つと、後ろの軍曹先生大喝一聲「コラー、前へ立ッナー」と怒鳴りつけるので、叱られる兵卒よりもこちらの方が却てびく／＼した。

前號の口繪を見て、草

秋の色をこゝに集めて大赤城

紅葉黄金葉瑠璃すむみ空

* * * * *

を旨く畫くとの出来る人は、又それでよいのではないか。畫品